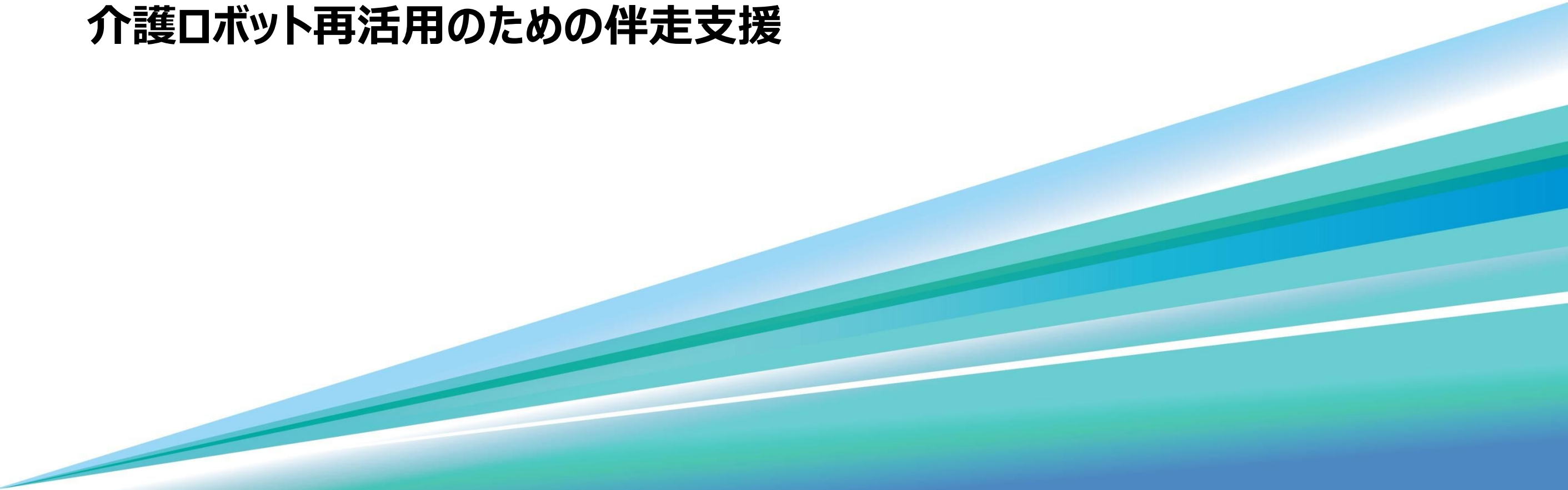


令和6年度 神奈川県介護生産性向上推進活動支援事業

眠りスキンの活用が職員の仕事の充実感や
利用者のQOL向上につながった取組み

介護ロボット再活用のための伴走支援



施設概要

- **法人名**：社会福祉法人 大六福社会
- **施設名**：伊勢原ホーム（特別養護老人ホーム）
- **住 所**：神奈川県伊勢原市子易1254-4
- **定 員**：ユニット型53名、従来型31名
- **理 念**：尊厳・自立・愛を基本理念とし、
ともに助け合い、ともに生きる心
を大切にしております



プロジェクトの概要

- ICT・ロボット等の導入状況

眠りスキャン(全床)、エスパシア(35台)、ほのぼの/タブレット

- 応募理由

- 見守り支援システムである眠りスキャンを“便利そう”という印象のみで導入してしまった結果、活用できていない。眠りスキャンを活用して、利用者個々の状況を把握し、個別ケアや業務負担軽減にいかしていきたい
- 今回の活動を通して職員に主体的に考え、判断できるようになってほしい

- 実施場所

3階の2ユニット（利用者数：15名）

- プロジェクトメンバー：

リーダー 1 名、サブリーダー 2 名の計 3 名が主体



取組み前の課題

● ロボット・ICTを有効活用できていないと感じていた

あなたの職場では、ロボット・ICTを導入し、上手く使えていますか？

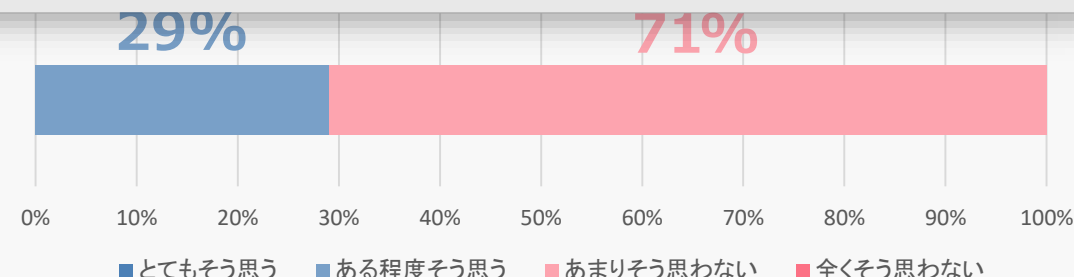
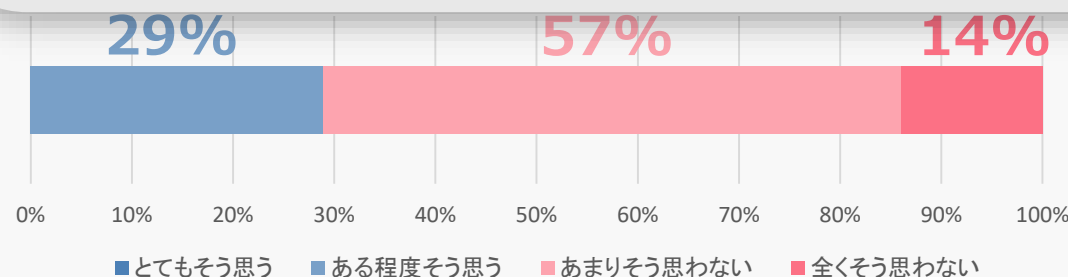
● 夜間の業務負担を感じていた

夜間の業務負担はどの程度ですか？（夜勤をしている職員のみ回答）

アンケート結果をもとに職員で対話を進めると

- 夜間の業務負担は、巡回頻度が多いことが影響している
- 利用者のアセスメント内容について認識が統一されていない
- 利用者のタイミングに合わせたケアができていない

といったことが見えてきた



介護ロボットの再活用 of 取組み

① 夜間の巡視を「1時間に1回→2時間に1回」に減らし、減らした分の見守りを眠りスキャンで代替

目的：「夜間業務の負担軽減」

② 眠りスキャン活用による記録の簡略化・必要な情報の選別

→眠りスキャンにデータとして残る“入眠時間や夜間の覚醒状況”などは経過記録には記載しない

→他部署・他職種にヒアリングを行い、経過記録に残すべき情報を選別

目的：「記録と情報収集の際の負担軽減」と「アセスメント意識の向上」

③ 眠りスキャンの覚醒表示に合わせた起床介助や支援・関わりを行う

目的：「覚醒時に介入することによる利用者の負担軽減」と「利用者拒否が減ることによる職員の負担軽減」

記録事項 まとめる前 (夜間のみ)

20:00	ケース	夕食後、口腔ケアして臥床。され程なく入眠。
R 6/11/25		
06:00	ケース	20時過ぎからモゾモゾ覚醒されていたので体交実施。23時過ぎからしっかりと休まれている。2時の排泄交換時も半覚醒でクッションを外しても覚醒無し、両下肢冷感無し、概ね良眠。定時巡回実施。
22:00	ケース	排便マイナス3日目の為夕食後ピコ8滴追加。口腔ケア実施後臥床されバット交換。四肢冷感あり膝掛けにて包み経過観察。21時四肢冷感改善。22時入眠確認。
R 6/11/26		

まとめたあと (夜間のみ)

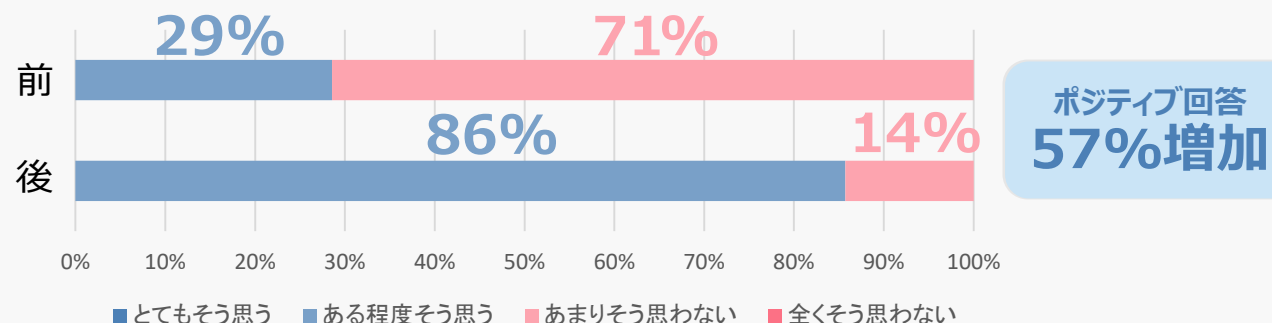
R 6/12/ 2		
02:00	ケース	【搔痒感】バット交換時陰部を左手で掻こうとされる。鼠径部赤み無し。
05:00	ケース	【伸展】入眠される迄は下肢緊張強いが入眠後は緩んでいる。
20:00	ケース	【搔痒感】腰を掻こうとすること多い。腰に皮膚トラブルなし。清拭実施。汚れのある肛門周辺、鼠径部は掻こうとしない。
R 6/12/ 3		
05:00	ケース	【伸展】1時には両足緊張緩んでいる様子。体位交換、圧抜き実施。
18:00	ケース	【搔痒感】排泄介助時に左手で腰・陰部かこうとする。陰部洗浄実施する。

記録の簡略化・必要な情報の選別

介護ロボットを再活用した結果

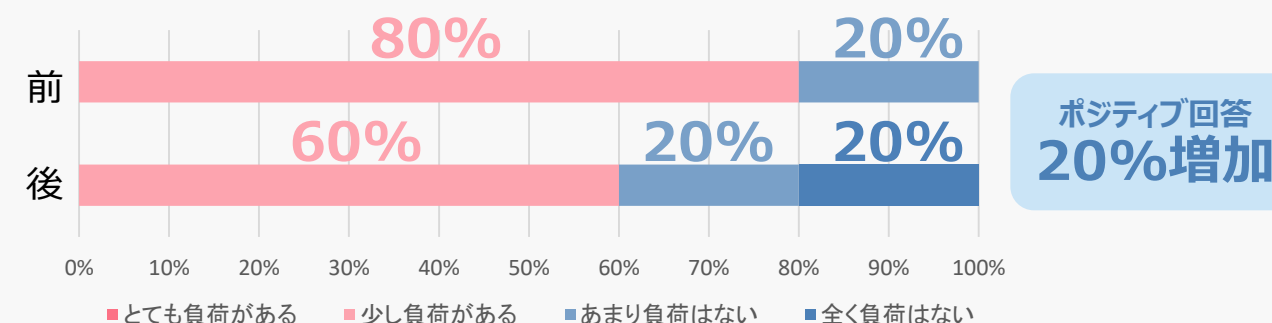
● ロボット・ICTを有効活用できるようになった

あなたの職場では、ロボット・ICTを導入し、上手に使えていますか？



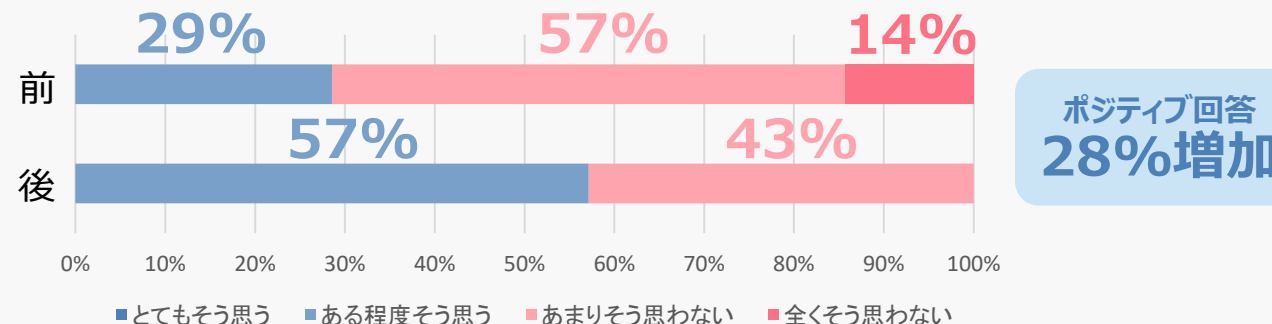
● 夜間の業務負担が軽減した

夜間の業務負担はどの程度ですか？（夜勤をしている職員のみ回答）



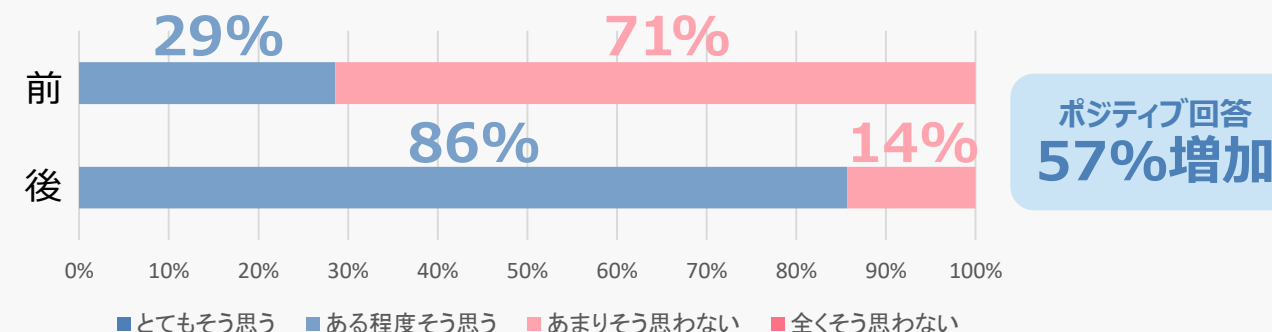
● アセスメントできている実感が増えた

利用者について日々アセスメントできていると感じますか？



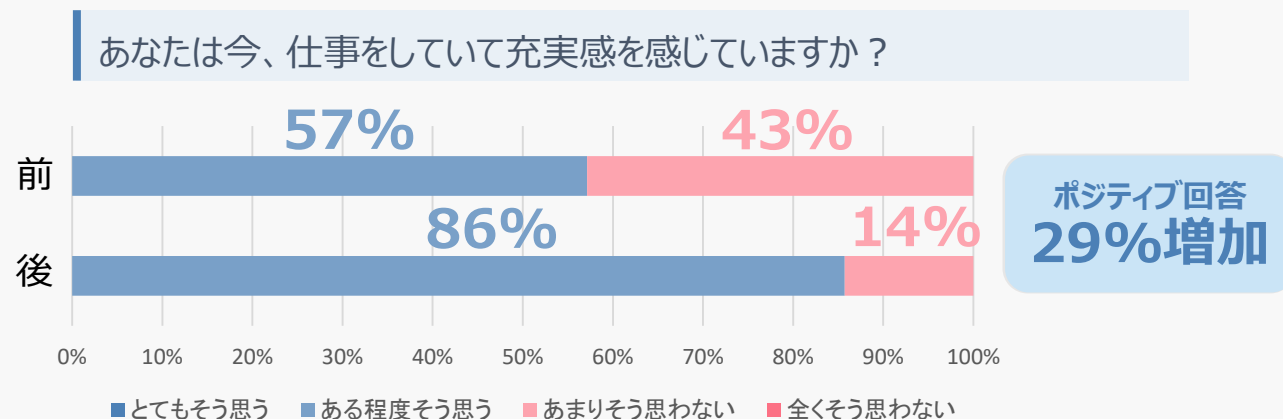
● いいケアをできている実感が増えた

利用者に自分たちが思ういいケアを提供できていますか？

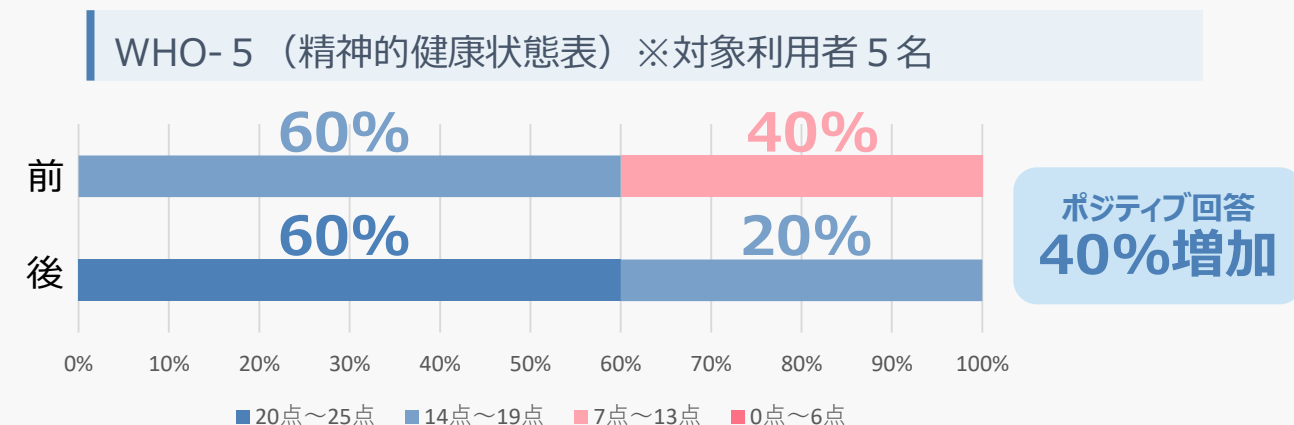


介護ロボットを再活用した結果

● 仕事の充実感が増えた



● 利用者QOLが向上した



今回の眠りスキャン活用の取組みを通じて

テクノロジー機器の有効活用に対する実感が高まり、夜間の業務負担が軽減された
それだけでなく、利用者のアセスメントが可能になったことで、より質の高いケアの提供につながり
さらに、**職員の仕事の充実感や利用者のQOL（生活の質）の向上にも貢献した**

今後の課題

- 今回の取組みを通して、業務負担が減り、利用者と向き合える時間が増えたので、日中の活動・レクを充実させることで、利用者がやりたいことに挑戦できる機会を増やしていきたい
- 情報収集のしやすさが、業務効率に大きく影響することがわかったので、他フロア・他部署にも同じような記録効率化の取組みを横展開していきたい